

ステークホルダーエンゲージメント

イオンモールは、すべてのステークホルダーに対して、経済価値、社会価値、環境価値を創出するというESG視点に基づく経営に徹底して取り組みます。

ステークホルダー	お客さま	地域社会	取引先・パートナー	従業員	株主・投資家	NPO・NGO
ステークホルダーとの関係性	お客さまに徹底して寄り添い、生涯忘れえない思い出となる最高の体験を共有	地域に密着するモール運営をめざし、地域社会にとって活力ある社会づくりに貢献	パートナーシップを構築し、共創を通じてコンプライアンス、人権、環境へ配慮した取り組みを進める	多様な人材が健康で能力を発揮し続けられる企業をめざし、人的資本への投資を推進	適切な情報開示、積極的な対話を通じて、株主・投資家への適正なリターンに努める	当社のESG経営の方向性に合致した非営利団体への支援を強化、社会課題の解決へ
対話の頻度	常時	随時	常時	年2回	随時	随時
対話手段	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまの声 ● イベント開催を通じたコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と連携し、ハートフル・サステナブル企画*を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の営業活動におけるコミュニケーション ● 同友店会の活動による交流 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己申告によるキャリアや希望の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● IRミーティングの実施 ● 情報開示の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 募金・献血活動などの支援

※「ESG経営の具現化」の施策として、地域・社会等が抱える課題の解決に貢献する継続的な取り組みを各エリア・モールで企画し、実施するもの。

ステークホルダーとの共創事例(2022年)

～埼玉県の「Next 川の再生・水辺 de ベンチャーチャレンジ」の河川活用～

越谷市・イオンモール株式会社 「(仮称)大相模調節池河畔 水辺活用に関する基本協定」を締結

概要

埼玉県越谷市はレイクタウンに隣接する「大相模調節池」を活用した地域の活性化について「Next川の再生・水辺deベンチャーチャレンジ」へ事業登録しました。その後、事業に取り組む民間企業を公募、当社が事業者として選定され、基本協定締結に至りました。

協定事項: ①良好な水辺と都市空間の形成 ②にぎわい創出
③地域との連携による魅力の向上 ④魅力の発信



締結日: 2022年8月27日

地域のニーズ

地域の暮らしを豊かにしている貴重な「地域資源」となっている大相模調節池を有効活用することで地域を発展、活性化。

取り組み内容

越谷市と当社は大相模調節池河畔の水辺を活用し、河川管理者である埼玉県と一体で地域の活性化を図ることを目的とし、これまで以上に連携を図り、水辺空間作りにおいて良好な水辺と都市空間の形成やにぎわい創出、地域との連携による魅力の向上に向け検討を進めていきます。



～従業員の成長やライフスタイルにあわせた働き方をサポート～

28歳・35歳・42歳の従業員を対象にキャリアプラン面談を実施

概要

当社は「従業員の『考え』を聴き、『心』を知り、従業員を活かす」という人事の基本理念のもと、従業員が生き生きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。一人ひとりがキャリア形成の悩みや将来のプランを人事統括部に相談できる機会として、ライフスタイルを見つめ直すきっかけを提供すべく28歳・35歳・42歳の従業員を対象にキャリアプラン面談を実施しています。

社会課題

従業員の抱える不安・問題を解消し、ワークライフバランスの取れた働き方を実現する「健康経営」が求められている。

取り組み内容

ライフステージに変化が起きやすい28歳、業務の中核を担う35歳、経験を積んで考え方の幅が広がる42歳と、いずれもキャリアを見つめ直す機会が多い年齢の従業員を対象に、結婚・出産にともなうキャリアの停滞、介護・病気の治療が必要な場合など、それぞれが抱えている不安を払拭して今後の進路をともに考えることで、個人の想いを受け止め、経営理念を具現化する人材の発掘・育成・配置に活かしています。それによって一人ひとりの健康増進意識の醸成や有給休暇の活用、業務生産性向上による長時間労働の削減に取り組んでいきます。

価値創造

- 13 価値創造のあゆみ
- 14 価値創造プロセス
- 15 イオンモールのビジネスモデル
- 16 イオンモールの事業(国内・海外)
- 17 価値創造ストーリー
(強みと経営資源戦略)
- 18 イオンモールの重要課題
(マテリアリティ)選定理由と方針
- 20 ステークホルダーエンゲージメント